

女子大学生の心理理解におけるバウムテストの有用性

— バウムテストと Y-G 性格検査, あるいは自己評価との関連 —

本田 優子・天本まりこ*・堀 みゆき**・米村 健一

The Usefulness of the Baum-Test for Psychological Understanding of Female University Students

— Relationships between the Baum-Test and Y-G Test, or Self-Esteem Test —

Yuuko HONDA, Mariko AMAMOTO, Miyuki HORI and Ken'ichi YONEMURA

(Received September 2, 1996)

We carried out a survey to clarify the potential usefulness of the Baum-test for psychological understanding of students. Thirty seven female university students were subjected to the Baum-test together with two other types of psychological tests, namely Y-G test and self-esteem test. The data obtained from these tests were analyzed and the results were as follows.

1. In the Baum (tree) drawn by uneasy emotional subjects, two characteristic figures, crown in shading style and grass on the ground, were frequently found.
2. In the Baum drawn by those subjects who scored low in the self-esteem test, six characteristic figures, third dimension, branch projecting towards the front, scanty fruits and leaves, closed end of root, grass on the ground and a strong pressure in handwriting, tended to be involved.
3. The Baum drawn by the easy emotional subjects were found to give soft, free and round impressions to the viewers.
4. The Baum drawn by the high-scoring subjects in the self-esteem test appeared to give no strong impressions to the viewers.

Key words : Baum-test, Y-G test, self-esteem test, female university student

1. はじめに

近年, 急激な社会情勢の変化により, 学校保健領域における精神保健問題は年を経るごとに深刻化し, 増加の傾向を示している¹⁾. 保健室に来室する児童・生徒をみても, 頭痛や腹痛といった身体的症状の背景に心理的な問題を抱えた, いわゆる心身症の子どもが多くなってきている²⁾.

こういった現状の中, 最近, 養護分野で, 心身症傾向の子どもへの対応としてヘルス・カウンセリングという言葉がよく聞かれるようになってきた. 杉浦によると「ヘルス・カウンセリングは, 精神的な緊張などが原因となり, 身体的な反応を表面に示してきたものに対し, 面接相談を通して精神的な安定を得させ, 自己解決に導き, それによって症状や苦痛を消去しようとするものである. 端的にいえば, 心身医学的立場からする言語的治療活動である。」³⁾とされている.

熊本大学教育学部教育保健学科: 860 熊本市黒髪 2-40-1

* 熊本大学大学院教育学研究科

** 福岡教育大学教育学部附属幼稚園

養護教諭がヘルス・カウンセリングを行うにあたって、まず必要なことは、子どもの訴える症状が器質性ではなく、心因性であることの判断である。そのためには、心理状態を理解しなければならないが、その手段としては、子どもとの会話の中から探る、担任などから情報を得るなどの日常的な観察によるものと、心身医学的テスト（以下、心理テストと略）を用いて客観的に知るものがあげられる。なお、心理テストを用いる場合は、日常的な観察で不十分な部分をテストにより補うといった補助的な形をとる⁴⁾。

杉浦⁴⁾は、ヘルス・カウンセリングで用いる心理テストとして、口頭試問方式・質問紙法・描画法・文章回答法などをあげている。しかし、これらのテストを実際にやってみようとする時、知識や経験がないこと、結果が信頼できるものかどうか、また、参考にできるものか等の点で、養護教諭は心理テストの使用をためらうことが多いようである。そこで、今回、描画法の一つであるバウムテストについて、心理状態の理解に役立つものとなりうるのかという視点で、ヘルス・カウンセリングの中での有用性を考えてみたいと思う。

バウムテスト⁵⁾（Der Baumtest：「バウム」とは、ドイツ語で Baum「樹木」を意味する）は、A4版の画用紙に軟らかい鉛筆（4B）で、実のなる木を自由に描かせるという手続きによって行われる人格検査の一つで、投影法の中でも描画法に属する。バウムテストは、人格診断のための補助手段として、近年、臨床場面・教育場面などで多数用いられ、また、非言語性の検査であるため、幼児などの言語能力の乏しいものにも実施可能であり、児童用の人格検査としても有効であるということが言われている⁶⁾。

これまでの研究によると、心身症傾向の子どものバウムと健常児のバウムには、その形態・動態・空間利用の領域について、何らかの有意差が認められている^{7,8,9)}。そして、心身症に陥りやすい子どもの傾向として、情緒の不安定な者があげられる¹⁰⁾。このことより、今回、情緒安定の目安として、Y-G性格検査を用いた。また、菅¹¹⁾の研究によると、自己評価（Self-Esteem、以下 SE と略）の高い群は、低い群よりも、「情緒的安定」と「社会的適応」の傾向が有意に強いという結果であり、自己評価の高さもバウムに違いがみられるのではないかと予想されたため、自己評価を測る菅の SE 尺度を用いた。

バウムテストの判定にあたっては、バウムテストの項目による分析^{5,7)}に加えて、印象的評価¹²⁾を行った。これは、現実的に、バウムテストの判定では、全体的印象¹³⁾も重要な役割を占めるということと、現職の養護教諭にとっては、バウムの詳しい分析よりは、バウムの全体的な印象から判断する比重が大きいと予想されたためである。

今回は、大学生を対象に、バウムテスト・Y-G性格検査・自己評価を行い、比較検討し、情緒の不安定さや自己評価の低さが、バウムテスト上でどのように表れるのかについて調査した。

2. 研究方法

- 1) 対象：熊本大学教育学部養護教諭養成課程 2 年生の女子 37 名
- 2) 期間：平成 7 年 10 月上旬～11 月中旬
- 3) 調査項目及び分析手順：バウムテスト・Y-G性格検査・自己評価（SE）を、それぞれ集団検査法により実施した。

(1)バウムテストは、各自に A4 版大の画用紙と 4 B の鉛筆を与え、「一本の実のなる木を描いて下さい。」¹⁷⁾と教示した。得られた資料は、「バウムテスト整理表」^{14,15,16)}と「心理テストの進め方・

読み方」に基づいて、バウムテスト整理表を作成し、全体的所見、幹、枝、樹冠、実・花・葉・根・地平、その他などの全 108 項目について整理を行った。以下、これらの項目を「バウムテストの指標」とした。また、バウムテストについては名前のみ知っており、内容を知らないと答えた熊本大学教育学部養護教諭養成課程 4 年生 12 名を評定者とし、S-D法を用いて樹木画 37 枚の印象評定を行った。評定尺度は山田¹⁰⁾の作成した 5 段階評価を用いた (図 1)。

(2) Y-G 性格検査は、実施後、性格類型の判定をし、情緒的側面より平均群 (A 型) と安定群 (C・D 型) と不安定群 (B・E 型) に分類した¹⁰⁾。そして、各群ごとにバウムテストの各指標の出現率と印象評定の集計をし、安定群と不安定群の 2 群間で差があるかカイ二乗検定を行った。

(3) 自己評価は、菅¹¹⁾の S E 尺度 (図 2) を用い、S E 得点の高得点群 (30 点以上) と低得点群 (20 点以下) に分類¹¹⁾し、各群ごとにバウムテストの各指標の出現率と印象評定の集計をし、高得点群と低得点群の 2 群間で差があるかカイ二乗検定を行った。

論 理 的 評 価	不正確な	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	正確な
	間違った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	正しい
	劣った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	優れた
	矛盾した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	一貫した
	不完全な	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	完全な
巨 大 性	浅い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	深い
	短い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	長い
感 性 的 評 価	かたい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	やわらかい
	束縛された	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	自由な
	しかくい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	まるい
	つめたい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	あつい
力 動 性	のろい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	すばやい
	消極的な	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	積極的な
	おそい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	はやい
	にぶい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	するどい

図 1 印象評定尺度

次の各項目について、あなた自身にどの程度あてはまるか、尺度上の該当する項目に○をつけてください。

(1) 私はすべての点で自分に満足している。

 そう ややそう ややちがう ちがう

(2) 私はときどき自分がまるでだめだと思う。

(3) 私は自分にはいくつか見どころがあると思っている。

(4) 私はたいいていの人がやれる程度には物事ができる。

(5) 私にはあまり得意に思うことがない。

(6) 私は時々、たしかに自分が役立たずだと感じる。

(7) 私は少なくとも、自分が他人と同じレベルに立つだけの価値ある人間だと思う。

(8) もう少し自分を尊敬できたならばと思う。

(9) いつでも自分を失敗者だと思いがちだ。

(10) 私は自身に対して前向きな態度をとっている。

図2 SE尺度

3. 結 果

1) バウムテストの指標とY-G性格検査の比較

表1に示すように、バウムテストの各指標（全108項目）の出現率について、Y-G性格検査

表1 バウムテストの指標とY-G性格検査の比較

	安定群(C・D)21人		不安定群(B・E)11人	
	出現頻数	%	出現頻数	%
樹冠の塗りつぶし	0	0	2	18.2 *
地平の草むら	0	0	2	18.2 *

*, $P < 0.05$

による情緒の安定群と不安定群の間で比較すると、「樹冠の塗りつぶし」「地平の草むら」の2項目において、安定群より不安定群が有意に高かった。

2) バウムテストの指標と自己評価の比較

表2に示すように、自己評価による高得点群と低得点群の間に、統計的な有意差はなかったが、「立体描写」「前に突き出た枝」「実・葉が少ない」「根の閉鎖」「地平の草むら」「筆圧強」の6項目の出現率は、高得点群に比べ低得点群に高かった。

3) バウムテストの印象評定とY-G性格検査の比較

表3にバウムテストの印象評定とY-G性格検査の関連を示す。バウムテストの印象評定については、Y-G性格検査による情緒の安定群と不安定群の間で、「かたいーやわらかい」「束縛されたー自由な」「しかくいーまるい」の3尺度(感性的評価尺度)において有意差が見られ、中でも安定群と不安定群間で有意差が見られた印象は、「かたい・やわらかい・自由な・しかくい・まるい」であった。さらに、有意差の見られた3尺度について、安定群内また不安定群内の左右の尺度を比較すると、3尺度全てにおいて不安定群の左右の尺度に有意差が見られ、安定群のそれらには見られなかった。

以上のことから、不安定群のバウムは、「やわらかい、自由な、まるい」印象だと言える。

4) バウムテストの印象評定と自己評価の比較

表4にバウムテストの印象評定と自己評価の関連を示す。自己評価の高得点群と低得点群の間で、有意差が見られた尺度は、「消極的なー積極的な」「おそいーはやい」「にぶいーするどい」の

表2 バウムテストの指標と自己評価の比較

	高得点群 8人		低得点群 6人	
	出現頻数	%	出現頻数	%
立体描写	0	0	2	33.3
前に突き出た枝	0	0	2	33.3
実・葉が少ない	0	0	2	33.3
根の閉鎖	0	0	2	33.3
地平の草むら	0	0	2	33.3
筆圧強	0	0	2	33.3

表3 印象評定とY-G性格検査の関連

	かたいーやわらかい		束縛されたー自由な		しかくいーまるい	
	安定群21人	不安定群11人	安定群21人	不安定群11人	安定群21人	不安定群11人
安定群21人	105	91	86	86	75	78
不安定群11人	35	65	38	68	25	68
	**	*		***	*	***
	***		***		***	

表内の数字は度数 *、 $P < 0.05$ **、 $P < 0.01$ ***、 $P < 0.001$

表4 印象評定と自己評価の関連

	消極的な・積極的な		おそい・はやい		にぶい・するどい	
高得点群8人	41	21	34	18	45	17
低得点群6人	26	29	24	24	22	26

表内の数字は度数 *、 $P < 0.05$ **、 $P < 0.01$ ***、 $P < 0.001$

3尺度（力動性因子）であり、中でも高得点群と低得点群間で有意差が見られた印象は、「積極的な・はやい・にぶい・するどい」であった。さらに、有意差の見られた3尺度について、高得点群内また低得点群内の左右の尺度を比較すると、3尺度全てにおいて高得点群の左右の尺度に有意差が見られ、高得点群のbaumは、「消極的な・おそい・にぶい」印象だった。しかし、この「消極的な・おそい」という印象は、高得点群と低得点群間で有意差が見られていないことから、残る「にぶい」という印象が高得点群の特徴であると言える。

以上のことから、高得点群のbaumは、「にぶい」印象だと言える。

5) Y-G 性格検査と自己評価の比較

図3に情緒の安定と自己評価の関連を示す。Y-G性格検査によって得られた安定群と不安定群の2群について、自己評価得点の平均値を比較した。安定群27.3点、不安定群22.9点であり、有意差が見られた。これは、菅¹¹⁾の研究結果と一致し、自己評価の高い者は情緒的安定・社会的適応が自己評価の低い者より高いと言える。

4. 考 察

ここでは、baumテストの指標に関連する結果と、baumテストの印象評定に関連する結果とに分けて考察する。

1) Baumテストの指標とY-G性格検査・自己評価について

これまでの研究によると、夜尿症児のbaum²⁰⁾には一線枝・枝先直など、枝に関する特徴が多く見られる。また、葉や実の表現が少ないことや、形態的特徴としては、全体的にサイズが小さい傾向があり、幹の基部が狭く不安定で、平行幹に近い細い幹、そして、長い幹に対して小さな冠部があげられている。さらに、登校拒否児のbaum²¹⁾では、健常児に比べ、枝・実・葉の描写が圧倒的に少なく、枝を描いても全一線枝か枝立体描写が多く、基幹部は幹下直になっていることが多い。そして、形態的特徴では、比較的小さいサイズであり、長い幹と小さい冠部、宙吊りの木、

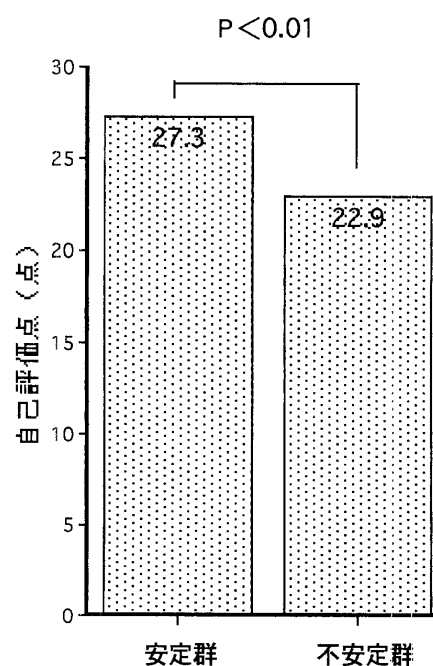


図3 情緒の安定と自己評価の関連

基幹部の左側の膨らみなどがあげられている。

今回、情緒安定群に比べ情緒不安定群に多く見られた特徴は、「樹冠の塗りつぶし」と「地平の草むら」であった。また自己評価の高得点群に比べ低得点群に多く見られた特徴は、「立体描写」「前に突き出た枝」「実・葉が少ない」「根の閉鎖」「地平の草むら」「筆圧強」などであった。

Koch²⁾や杉浦⁷⁾によれば、「樹冠の塗りつぶし」は制止・感動・気分的反応ができる・共感・弛緩した気分の状態を表し、「地平の草むら」は隠蔽・不安定な状態を表すとされている。また、「立体描写・前に突き出た枝」は、独創的・わがままを表し、「実・葉が少ない」ことは気力が弱い・収穫希望が弱い・将来への希望がないという状態を表しており、「根の先端の閉鎖」は現実に執着・不活発なことを、「筆圧強」は意志の緊張（抵抗力）と感情の激しさを表すとされている。

これらの特徴のうち、「地平の草むら」「前に突き出た枝」（立体描写）と「実・葉が少ない」ことは、他の研究結果とも共通しており、情緒不安定や自己評価の低さを示す指標と見てよいのではないかと思われる。

バウムには年齢的発達が大きく影響し、幹と冠部の大きさの比率については、幼児期には幹が長く、成長するに従って冠部が大きくなり、高校・大学生では冠部の方が大きくなり、その後は加齢に伴って再び幹が長くなっていくことが知られている²²⁾。今回対象としたのは青年期女子であるが、そのバウムの特徴としては、冠は冠部を形成する外郭の描線によって形成され、それによって幹先端が包み隠されるものが多いと言われている²³⁾。今回の結果では、情緒の安定度と自己評価の高低の間で、冠部に関する特徴は見られなかった。年齢不相応なバウムを描く者は、心理的にも退行傾向にあると言われることから、そのようなバウムも情緒的安定を識別する際に考慮すべきであると思われる。

2) バウムテストの印象評定と Y-G 性格検査・自己評価について

Y-G 性格検査による情緒的安定群と不安定群の比較では、「かたい—やわらかい」「束縛された—自由な」「しかくい—まるい」の3つの尺度（感性的評価因子）において差が見られた。また、自己評価による高得点群と低得点群の比較では、「消極的な—積極的な」「おそい—はやい」「にぶい—するどい」の3つの尺度（力動性因子）において差が見られた。この結果は、情緒的安定・社会的適応の状態がバウムに表れ、評定者が受けた印象に影響したことを示していると言える。

つまり、情緒的な安定度と自己評価の程度を見分ける視点として、バウムテストの印象評定のうち、感性的評価因子と力動性因子が重視されると言える。今回の結果では、情緒的に不安定な人の描くバウムは、やわらかく自由でまるい印象であり、自己評価の高い人の描くバウムは、にぶい印象を与えやすいと考えられる。バウムテストの印象評定については、バウムテストに習熟しているかどうかの影響し、習熟している者の方がバウムに投影されたものをより正確に捉えることができると言われている。しかし、今回の研究における評定者はバウムテストに習熟していない大学生であったが、Y-G 性格検査による情緒安定群と不安定群、自己評価の高得点群と低得点群の間で、評定に差が見られたことから、同じくバウムテストに習熟していない養護教諭にも、バウムに投影された子どもの心理を、その印象から読みとることがある程度可能だと考えられる。

5. ま と め

今回私たちは、大学2年生女子37名を対象に、バウムテスト・Y-G性格検査・自己評価を実施し、情緒の不安定さや自己評価の低さが、バウムテスト上でどのように表れるかについて、以下の結果を得た。

- 1) 情緒的に不安定な者のバウムには「樹冠の塗りつぶし」と「地平の草むら」の2つの指標が多く見られた。
- 2) 自己評価の低い者のバウムには、「立体描写」「前に突き出た枝」「実・葉が少ない」「根の先端の閉鎖」「地平の草むら」「筆圧強」の6つの指標が多く見られる傾向があった。
- 3) 情緒的に不安定な者のバウムは、「やわらかく、自由な、まるい」印象を与えた。
- 4) 自己評価の高い者のバウムは、「にぶい」印象を与えた。

今回の女子大学生を対象とした研究結果をふまえ、今後は、広く児童・生徒を対象とする養護教諭の現場でのバウムテストの応用へ向けて、児童・生徒を対象とした研究が求められると考える。

謝 辞

本研究のまとめにあたり、貴重な御助言を戴きました熊本大学教育学部心理学科助教授、名島潤慈先生に深謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 徳山美智子：高等学校養護教諭と学校精神保健，児童青年精神医学とその近接領域，35 (2)，pp. 77-83，1994
- 2) 「学校における教育相談の在り方－養護教諭の相談活動を中心として－」，長崎県教育センター紀要，174号，pp. 71-91，1993
- 3) 杉浦守邦：ヘルス・カウンセリングの進め方1，pp. 1-9，東山書房，1992
- 4) 杉浦守邦：ヘルス・カウンセリングの進め方3，－心理テストの進め方・読み方，pp. 8-20，東山書房，1993
- 5) Koch, C. (著)/林 勝造，国吉政一，一谷 彊(訳)：バウム・テスト－樹木画による人格診断法－，日本文化科学社，1970
- 6) 仙田善孝：バウム・テストの信頼性－幼児を対象として－，心理測定ジャーナル，177号，pp. 14-20，1980b
- 7) 4)前掲書 pp. 26-108
- 8) 津田浩一：日本のバウムテスト－幼児・児童期を中心に－，pp. 97-167，日本文化科学社，1995
- 9) 林 勝造，一谷 彊：バウム・テストの臨床的研究，日本文化科学社，1994
- 10) 養護教諭執務の手引(実践学校保健選書・8)，東山書房，1985
- 11) 菅 佐和子：S E (Self-Esteem) について，看護研究，17 (2)，pp. 21-27，1984
- 12) 8)前掲書 pp. 28-48
- 13) 仙田善孝：バウム・テストの信頼性に関する研究－全体的印象について－，教育心理，28号，pp. 69-72，1980a

- 14) 津田浩一：「バウム・テスト整理表」の紹介 [1]，心理測定ジャーナル，16 (9)，pp.17-22,1980
- 15) 津田浩一：「バウム・テスト整理表」の紹介 [2]，心理測定ジャーナル，16 (10)，pp. 2-8，1980
- 16) 一谷 彊，津田浩一：「バウム・テスト整理表」の作製とその具体的利用，京都教育大学紀要，Ser. A，人文・社会，61号，pp. 1-22，1982
- 17) 4) 前掲書 pp. 26-108
- 18) 山田麻有美：バウム・テストに関する研究－印象評定を基にして－，心理測定ジャーナル，14 (12)，pp. 3-6，1978
- 19) 八木俊夫：Y Gテストの診断マニュアル－人事管理における性格検査の活用－，日本心理技術研究所，1989
- 20) 杉村省吾，円 良子，西村圭子：Der Baumtest の実証的研究－夜尿症児の場合－，武庫川女子大学紀要，文学部編，33号，pp. 15-32,1985
- 21) 杉村省吾，円 良子：Der Baumtest の実証的研究－登校拒否の場合－，武庫川女子大学紀要，文学部編，31号，pp. 67-84，1983
- 22) 一谷 彊，林 勝造，国吉政一，小林敏子，津田浩一，山下真理子：バウムテストによる生涯的発達研究 [1]－樹冠と幹の関係指標の発達の傾向と精神的加齢現象の検討－，京都教育大学 紀要，Ser. A，人文・社会，69号，pp. 53-68，1986
- 23) 岩城 操，吉川公雄：現代の青年期女性にみられるイメージ形成の特徴－バウムテストによる人間生態学的研究 3－，京都女子大学自然科学論叢，10-11：pp. 1-87，1978